

◆ 上島 書道教育の充実について伺います。

世田谷区は美しい日本語を世田谷からと称し、国語教育に力を注いでいるところであります。具体的な全体像は秋ごろに示されると伺っており、厚みのある内容を心から期待しているところでありますが、私はその中で、書写、書道の充実を行っていくべきと考えております。

ご案内のとおり、パソコンなど情報機器に囲まれる時代にあつて、若年層の文字離れ、活字離れが進んでいます。情報化社会がさらに進んだ今日、むしろ重要視されてきていると思います。

現在、小中学校では書写ということで、低学年は硬筆、高学年からは毛筆で、カリキュラム上は年三十時間の時間をとっています。しかし、実際は他の教科におくれがある場合などは、最も振りかえられてしまうことの多い教科であると言います。確かに、受験等で求められる学力に直接関係ない教科として軽んじられるのだろうと想像にかたくありません。

書写、その先にある書道は、姿勢を正し、言葉の意味を考えながら、落ち着いて一画一画を意を込めて書くことで心を整え、情操を涵養するものであります。既に取り上げられております漢詩、漢文とともに修めることで、日本人としての教養の基礎が身につくことが大いに期待できます。

ご案内のとおり、勉強ができることと教養があることは全く別次元であります。昨今の人心荒廃の著しい世相を見ておきますと、教養をいかにはぐくむのかということに、教育はもっと重心を置くべきであると強く思うのは私だけではないと思います。

さらに、美しい日本語という意味では、国語を形成する文字、その文字の真の形は筆でないとはわからない部分があります。早い時期から文字の本当の形を体で覚えていくことが肝心になります。また、書という美をたしなむということで、よいものを見る目や身の回りを整えるという視点が自然に身についていくものと言われております。そういう意味で、現在硬筆で学んでいる低学年からも毛筆で書写を行うことが本来望ましいのでございますが、それは現在の学習指導要領では実現できず、日本語教育特区として初めて行えるものなのであります。

さて、具体的な取り組みの形としては、区内の書家にもお手伝いいただきながら、美しい日本語の授業をとということで進めていただきたいと思います。その点についていかにお考えかお伺いいたします。

◎ 教育改革担当部長 私からは、「日本語」教育特区、教科「日本語」に書道を取り入れてはどうか、こういうご提案について、ご質問にお答えをいたします。

書道は日本の伝統芸術の一つであり、書道を学ぶことを通して集中力を養い、落ち着いて物事に取り組む態度を育成するということが言われております。教科「日本語」におきましては、日本文化の一つである書道に触れるような授業のあり方について、今後検討してまいりたいと考えております。